

平成28年度（2016年度）

自己点検・自己評価報告書

2017年3月

学校法人 新潟高度情報学園

新潟高度情報専門学校



新潟高度情報専門学校が掲げる、技術者の養成に合わせ、教養・人格度の高い道義・礼節・作法をも身に付けた、人間性豊かな技術者及び実務者を育成するという目的において、自らの教育活動その他の学校運営について、社会のニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価・公表することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること、および、学校評価の実施およびその結果の公表を適切に行なうことで学校関係者等から理解と参画を得て、地域におけるステークホルダーと専修学校との連携協力による特色ある専修学校づくりを推進するべく、自己評価、学校関係者評価を行う。

以下、平成28年度の自己点検・自己評価結果を記す。

○平成28年度 自己点検・自己評価委員

氏名	役職・所属
石澤 直樹	新潟高度情報専門学校長
亘 英一	新潟高度情報専門学校 教務課長
金子 貴之	新潟高度情報専門学校 入学広報課長
岩野 賢一	新潟高度情報専門学校 情報学科主任
樋口 直武	新潟高度情報専門学校 情報工学科主任
渡辺 繁樹	新潟高度情報専門学校 ゲーム学科主任
大黒 健一	新潟高度情報学園 経理部長
石黒 貴行	新潟高度情報専門学校 総務部主任



## 平成28年度 自己点検・自己評価

### 1. 学校の教育目標

学校教育法に基づき、技術者の養成に合わせ、教養・人格度の高い道義・礼節・作法をも身につけた、人間性豊かな技術者及び、人材を育成する。

設立時の役員の理念を大切にしており、その精神は現在も引き継がれている。

また、最新の技術の習得にも力を入れ、これからの地元新潟および日本の情報技術の発展に寄与できる人材育成を目的としている。

### 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- ・職業実践教育を強化するため、産学連携、地域連携およびカリキュラムの充実を図る。
- ・新しい高等教育機関への移行・計画と合わせ、学校の新たな魅力作りを進める。

### 3. 評価項目の達成及び取組状況

#### (1) 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4 3 2 1
・学校における職業教育その他の教育指導等の特色は何か	4 3 2 1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 3 2 1
・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に 周知されている	4 3 2 1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに 向けて方向づけられているか	4 3 2 1

#### ① 課題

- ・卒業生に関する企業向けのアンケート等を整備し実施を検討。

#### ② 今後の改善方策

- ・企業向けアンケート等より情報を得て、職業教育に反映させることを検討。28年度は、就職担当による情報収集および、魅力づくり・教育連携に絡めて企業との協力関係を強化する形で情報収集をすすめる。

#### ③ 特記事項

## (1) 教育理念・目標

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

<b>評価指標</b>	
・ 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	
理念・目的は学則に明記し、育成人材像は学生マニュアルでさらにわかりやすく表現してある。これらの内容を周知徹底し、教職員・学生とも共有することが目標とする教育を实践するうえで重要である。	<b>4</b>
・ 学校における職業教育その他の教育指導等の特色は何か	
人間教育(道義礼節を兼ね備えた技術者の育成)、資格取得、担任制、精神的な自律と技術者として自立できる学生の育成を特色として掲げている。そして、情報の技術進歩に合わせ、トレンド・技術をカリキュラムに反映させるために産学連携を推進し、企業連携の充実を図るため各分野の業界団体に参加し情報収集にあたっている。	<b>4</b>
・ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	
産学関係事業を通して社会ニーズの把握と新潟高度の名前にふさわしい優秀な人材の輩出を目指し、社会に貢献する学校をめざしている。教員は、先進的な技術を自ら講座等に参加し、カリキュラムに落とし込むことが必要である。 業界的に、5年、10年先よりも、学生が卒業する2～4年後を想定し、社会に必要とされる知識や、開発ツールに頼らず基本となるプログラミング技術の習得を重要とする指導方針を重視し、実際に役に立つ事柄を教え伝えていきたい。	<b>4</b>
・ 理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	
学生マニュアルに記載している。また、ホームページやパンフレット等へ掲載し、広く周知している。他、保護者会で配布する資料等の充実を図りたい。	<b>4</b>
・ 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	
必要とされる人材像を業界毎に検討し見直しを行っている。業界動向を把握するための、関連企業との連携強化により、連携授業を開始した。授業内容への落とし込み、社会ニーズに直結する科目内容となるよう改訂を進めたい。	<b>4</b>

## (2) 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・目的等に沿った運営方針が策定されているか。	④ 3 2 1
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか。	④ 3 2 1
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、 また、有効に機能しているか。	④ 3 2 1
・人事、給与に関する規程等は整備されているか。	④ 3 2 1
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか。	④ 3 2 1
・地域社会等に対して学生が交流でき体制が整備されているか。	④ 3 2 1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	④ 3 2 1
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	④ 3 2 1

## ① 課題

- ・平成29年度の新潟高度の特色をどう出すかを検討

## ② 今後の改善方策

- ・特色となる学習科目を実施する。

## ③ 特記事項

## (2) 学校運営

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
・ 目的等に沿った運営方針が策定されているか	
<p>全体会を通じて年度当初に研修を実施。学生マニュアル・教員マニュアルを整備し、運営方針を定めている。</p> <p>職業実践専門課程・企業連携を効果的に実施するため、運営について検討する。</p>	4
・ 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	
<p>事業計画に基づき実施されている。人材育成並びに資格取得・就職内定について目標達成をめざし教職員が努力している。</p> <p>学生確保が厳しくなることが予測され、学校として高校生や将来を考える小中学生に情報技術の必要性を広く知ってもらい、情報処理に興味を持ってもらうことができる機会を提供すること等、様々な取り組みをおこなっている。</p>	4
・ 運営組織や意思決定機能は規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか	
<p>組織、意思決定には問題はない。グループウェアを有効活用し決済の迅速化を図っている。事務職員の担当業務の増加により事務分掌の見直しを進めている。</p>	4
・ 人事、給与に関する規程等は整備されているか	
<p>整備されている。人事考課については学校経営全体の収支に応じて判断している。</p>	4
・ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	
<p>グループウェアが導入されており、各役職での決済、承認権限を与えている。他、出欠席委員会、進級会議、理事会等それぞれの意思決定の為の仕組みがあり、会議の実施により意思決定している。</p>	4
・ 地域社会等に対して学生が交流できる体制が準備されているか	
<p>対外活動(エール活動やCANIプロジェクト)等の地域に根差した活動している。産学関係の強化にともない、学習として学生らが学外に出ることが多くなってきている。</p> <p>徐々にではあるが、小中学校や企業との繋がりも広がり、携われるテーマについても多様になってき、学生等にとって興味深いものになってきた。また、IoTや専門分野を伸ばすゼミを実施する。</p>	4

<p>・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか</p>	
<p>学校行事や産学関係や対外活動(エール活動やCANIプロジェクト)、小学校・高校での出前授業など活動範囲も広がってきている。ホームページやSNSを通し学生等の活動を紹介している。</p>	<p><b>4</b></p>
<p>・情報システム化等による業務の効率化が図られているか</p>	
<p>校内システムによる業務の効率化は図られている。従来から自前の成績管理システム、出欠席管理システム、予算管理システム等を運用し、グループウェアを導入し、必要により改修やパッケージの導入を検討する。</p> <p>学生用グループウェア(desknet's)の活用方法が向上し、各種の連絡・授業や就職活動で学生利用が活発になった。次年度、就職情報をデータベース化し学生に公開できるよう進める。</p>	<p><b>4</b></p>

## (3) 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1		
	工学	情報	ゲーム
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	4	4
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	4	4
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	4	4
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	4	4
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	4	4
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	3	4	3
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4	4	4
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	4	3
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	4	4
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3	4	4
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	4	
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	4	4	3
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	4	4
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	4	4

## ①課題

## [情報工学科]

- ・学生が、より自主的にITの研究及び製作活動を行える時間を提供する必要がある。
- ・最新技術やIT業界の動向について、教員がより積極的に目を向ける必要がある。

## [高度情報システム／情報システム科]

- ・職業教育に関する教科目・研究機材等の質を充実させる。
- ・教育連携校カリキュラムの効果的な連携を強化する。
- ・教員の専門分野に対して専門性・質のスキルアップを行う。

## [ゲーム開発専門／技術科]

- ・デジタルコンテンツ制作指導時の演習課題の充実
- ・外部関係者からの評価受け入れ体制の整備

## ②今後の改善方策

### [情報工学科]

- ・カリキュラムの見直し（より柔軟に対応できる体系づくり）
- ・教員の技術力向上や研究を行える時間の確保
- ・セミナーの積極的な参加

### [高度情報システム／情報システム科]

- ・当校カリキュラムと教育連携校カリキュラムの方向性や強み、効果等、カリキュラムの改善を図り、当校の特色するため検証を継続する。
- ・教員のスキルアップのため外部研修への参加、内部研修の実施を行う。
- ・地域活動やワークショップ、インターンシップ等を通して、外部機関との接触する機会の増加を図る。

### [ゲーム開発専門／技術科]

- ・教員の研究時間の確保
- ・外部公開可能なシラバスの作成

学生と教員の履修目的の認識共有／演習課題の充実／評価基準の明確化

## ③特記事項

・

## (3) 教育活動

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	
<p>教育理念をふまえ、資格取得、自分で調べる力、目標に向かって計画・実行できる能力、コミュニケーション力の向上など総合的な人間力の向上を目指し、技術と実践を兼ね備えた新潟高度の教育と、連携先の帝京大学として知識、研究の教育があり、双方を満たす教育課程の編成を策定、実施している。</p>	<b>4</b>
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	
<p>社会のニーズに合わせ、学士取得・技術者養成を連動させ、社会の求める人材育成の為のカリキュラム検討を重ねている。</p> <p>また、学生に対して学校および情報工学科の教育方針を学生マニュアルに明示し、入学時にカリキュラム、コマシラバスと共に説明することで、教育到達レベルおよび学習時間を明確にしている。</p> <p>職業教育に関し授業に反映することや次年度に向け履修内容を充実させる。</p>	<b>4</b>
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	
<p>技術習得・資格取得に合わせたカリキュラムであり、かつ学士を取得する為に編成された内容である。IT関連技術の習得や資格取得に対して十分な時間を割きながらも、着実に大学の単位を取得できる体系的カリキュラムになっている。</p> <p>学科の柱として、システム構築・組込技術・ヒューマンスキル・英語教育そして大学科目修学の5つがあるが、帝京大学との併修であるため帝京大学のカリキュラム改革による影響を受ける。</p>	<b>4</b>
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	
<p>科目全般にアクティブラーニング手法を取り入れている。また社会性やヒューマンスキル(自律性、主体性、創造性、改善力、コミュニケーション力)向上の為、産学連携に基づく実践的科目を導入し、科目としてのキャリア教育の他、個々のケースに応じたキャリアサポート強化を図っていく、きめ細かなサポート体制を整えている。</p> <p>また、多様な技術動向や学生の研究目的に対応できる機器・機材・書籍等の購入計画、授業へ取り込む等強化している。</p>	<b>4</b>

<p>・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</p>	
<p>帝京大学のカリキュラム改革に併せて、毎年見直しの必要性が生じている。帝京大学では専門科目だけでなく法学や心理学、スポーツ科学などの教養科目を履修させることで、専門に偏らない幅広い知識の人材育成を狙いとしており、基礎・教養科目が新設される一方で専門科目の統廃合が目立つ。それに合わせて、当学科も情報工学科としての特色を損なうことなく柔軟に対応している。</p> <p>関連分野の企業、および業界団体に参画頂いている教育課程編成委員会を実施し、カリキュラムや実施方法のご意見を頂き、その結果と技術動向を踏まえ次年度カリキュラムの作成、および見直しを行っている。</p>	<p><b>4</b></p>
<p>・ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携による実習等）が体系的に位置づけられているか</p>	
<p>ヒューマンスキル(自律性、主体性、創造性、改善力、コミュニケーション力)向上に特化した実践的科目「アクティブラーニング」を1～3年合同で実施しているが、この内容については教育課程編成委員会での助言を参考にしている。当科目は関連分野企業の方に非常勤講師として授業を実施していただくなど、実習内容を学校と企業で話し合いによって策定・実施し、高い評価を頂いている。インターンシップに関しては授業時間の都合上体系立てて行えていないため、次年度の取組みとなる。</p>	<p><b>3</b></p>
<p>・ 授業評価の実施・評価体制はあるか</p>	
<p>半期毎に学生への授業理解度アンケートを実施し、評価結果を講師にフィードバックすることで、学生の理解度および改善点を把握し、学生の満足向上に努めている。アンケート結果に問題があれば担当にヒアリングを行い、教務課長・学科主任を中心に適宜見直しを実施し、次回の担当授業に生かしている。</p>	<p><b>4</b></p>
<p>・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか</p>	
<p>教育課程編成委員会で外部関係者の方々から、職業教育に関する評価・アドバイスを頂いている。今後は定期的な授業評価としてカリキュラムや学生指導のほか、ボランティア活動など校外活動等さまざまなシチュエーションでも協力関係を築き、学生がいろいろな立場の方達から有益なアドバイスをいただけるように、また、活動の幅を広げられるよう29年度以降に向け各企業との接点を増やす。</p>	<p><b>4</b></p>

<p>・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか</p>	
<p>評価や認定の基準は共通となっており明確である。期末試験や課題に重きを置き、平素の授業態度、確認テスト、授業出席率、課題提出状況による総合点により評価を行い、進級および卒業を認定する。</p>	4
<p>・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</p>	
<p>情報系の主要目標検定である情報処理国家試験においては、入学後1年での基本情報技術者試験(以下 基本情報)を受験、その後、午前免除試験(基本情報)、基本情報や応用情報技術者試験を段階的に受験・取得するカリキュラム構成となっており、基本情報は在席取得率も8割近くとなっている。ただし秋は帝京大学の単位認定試験と国家試験が重なり、大学を優先せざるを得ないため、大学生として自主的に検定取得に取り組む指導をはじめたので今後結果につながる様に指導する。</p> <p>またTOEICについては2年次と3年次の2回受験を行う。1年次から3年次まで英語は全期にあり、TOEICの大学生平均点を上回る成績を残している。文法中心ではなくコミュニケーション英語から行うため、英語が嫌いな学生でも成績は向上している。</p> <p>両試験とも合格率アップのため、受験者一人ひとりに丁寧なサポートを行っている。</p>	3
<p>・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</p>	
<p>客観的な評価尺度として情報系教員全員が情報系国家資格を取得済。更に、上位資格の取得につなげる。</p>	4
<p>・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか</p>	
<p>教育課程編成委員会、および学校関係者評価委員会などで関連分野における業界関係者とコネクションを持ち、カリキュラム作成を始め、授業協力等の関係を築いている。</p>	4
<p>・関連分野における先端的な知識・技能等を修得する為の研修や教員の指導力育成など資質向上の為の取組が行われているか</p>	
<p>近年は特にIoTや新技術、教育法に関するセミナーに数多く参加し、知識や技術、最新の動向などにも積極的に目を向けている。</p> <p>教員の教授力については授業アンケートを活用し内部評価・指導をおこなっており、新入社員・中堅社員について外部研修に参加させ教授力の向上を図る。</p>	4

・ 職員の能力開発の為に研修等が行われているか	
学科専任の職員は配置されていないが、学校として外部での研修に参加、業務知識習得のため研修に参加している。	<b>4</b>

## 平成27年度 自己点検・自己評価 学 科 高度情報システム/情報システム科

## (3) 教育活動

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
<p>・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか</p>	
<p>当校の教育理念に基づき、知識・技術だけでなく、人間として評価される人材となるように教育課程の編成を行っている。その上で、資格取得、自分で調べる能力、目標に向かって計画・実行できる能力、コミュニケーション能力の向上、指導教員を超える学生の輩出ができるように、学校・教職員は 学生を親身に指導・サポートしている。</p>	<b>4</b>
<p>・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</p>	
<p>IT業界の技術動向や世の中のニーズに合わせた資格取得、技術者の養成に努め、毎年、社会の求める人材育成の為のカリキュラム検討を重ねている。各科目のコマシラバスおよび履修計画を作成し、その中で教育到達レベルおよび学習時間を明記し、学生に提示している。確認テスト、実習課題等を小まめに実施してクリアさせることで、一定の教育到達レベルを担保している。また、2年制課程、3年制課程ともに修業年限に応じた教育成果として卒業年次の後期に卒業研究科目を設けて、集大成としている。</p>	<b>4</b>
<p>・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか</p>	
<p>技術動向や社会ニーズをカリキュラムに取り入れる為に毎年見直しを図り、資格取得とキャリア教育を柱としたカリキュラムを構築し、教育方針に従い目指すべき人材像に添うように、各学科において入学から卒業までのスパンで体系的に編成している。教育課程編成委員会で聴収した業界団体などの意見も取り入れ、実践的なカリキュラムになっている。</p>	<b>4</b>
<p>・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか</p>	
<p>入学時より就職に対しての意識付けを行い、就職前年度に通年科目として「キャリアデザイン」を実施。各分野の企業による講演など、授業内外において就職支援を行う環境がある。日常的な学校生活においても学生・教員間の礼儀作法をはじめ、報告、連絡、相談 など社会人として必要な要素を身に付けるよう指導している。</p>	<b>4</b>

<p>・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</p>	
<p>関連分野の複数企業、および業界団体に参画して頂き、年2回「教育課程編成委員会」を実施。カリキュラムや実施方法についてご意見を頂き、その結果と技術動向を踏まえ、柔軟に次年度カリキュラムの見直し、および改善を行っている。</p>	<p><b>4</b></p>
<p>・ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ実技・実習等）が体系的に位置づけられているか</p>	
<p>関連分野企業に非常勤講師を依頼して授業を行い、評価を頂いている。授業内で企業インターンシップを行う科目を取り入れ、実際に企業の中で現場の技術者から直接指導を受ける体制を取っている。また、公共施設を利用して地域の方を対象とした活動も行っている。今後も積極的に外部との連携を進め、より実践的な教育を目指す。</p>	<p><b>4</b></p>
<p>・ 授業評価の実施・評価体制はあるか</p>	
<p>半期毎に学生への授業理解度アンケートを実施し、評価結果を講師にフィードバックすることで、学生の理解度および改善点を把握し、学生の満足向上に努めている。アンケート結果に問題があれば担当にヒアリングを行い、学科主任を中心に適宜見直しを実施し、次回の担当授業に生かしている。</p>	<p><b>4</b></p>
<p>・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか</p>	
<p>卒業研究科目において教育連携企業に協力を依頼して、定期的に学生の制作物に対してレビューを行い、専門的なアドバイスを頂いている。厳しい意見もあったが、学生にとっては良い刺激となり、制作物の品質が上がった。今後はさらに企業連携を深め、より実践的な職業教育を実施したい。</p>	<p><b>4</b></p>
<p>・ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか</p>	
<p>期末試験、確認テスト、レポート課題、制作物、授業態度、出欠席を用いた絶対評価制度を実施している。授業の取り組みによってはグループワークもあり、指導教員の主観による評価づけにならないよう、公平な評価となるよう評価基準について検討を繰り返している。</p>	<p><b>4</b></p>

<p>・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</p>	
<p>情報系の主要目標検定である情報処理国家試験においては、入学後半年での基本情報技術者試験(以下 基本情報)を受験、その後、午前免除試験(基本情報)、基本情報や応用情報技術者試験、高度情報技術者試験を段階的に受験・取得するカリキュラム構成となっている。合格率向上のため、試験日の約1か月前より対策授業を行い、合格をサポートしている。</p>	4
<p>・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</p>	
<p>客観的な評価尺度としては情報系教員全員が情報系国家資格を取得している。更に新しい技術のカリキュラムに取り入れていくため、外部研修や内部研修を通して継続的な教員のスキルアップ向上を図っている。</p>	4
<p>・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか</p>	
<p>教育課程編成委員会、および学校関係者評価委員会などで関連分野における業界関係者との意見交換などによる交流を持ち、カリキュラム作成を始め、授業協力等の関係を築いている。</p>	4
<p>・関連分野における先端的な知識・技能等を修得する為の研修や教員の指導力育成など資質向上の為の取組が行われているか</p>	
<p>情報分野における先進的な知識や技能等の修得に関しては、積極的に外部研修やセミナーや展示会などに参加し、教員の知識・技能等の向上を図っている。指導力育成については学生に対しての授業アンケートを実施し、客観的な内部評価・指導を行っており、新入社員・中堅社員については外部研修に参加させ指導力の向上を図っている。</p>	4
<p>・職員の能力開発の為の研修等が行われているか</p>	
<p>学科専任の職員は配置されていないが、学校として外部での研修への積極的な参加を奨励し、新しい業務知識の習得に努めている。</p>	4

## 平成27年度 自己点検・自己評価

学 科 ゲーム開発専門科/技術科

## (3) 教育活動

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	
ゲーム開発のために企業で使用される各種開発ツール、及びゲーム開発のためのプログラミング言語を習得できる教育課程を編成している。	<b>4</b>
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	
アプリケーションをリリースするまでの工程を演習課題とし、プロジェクトの進捗を評価することで、業務に対応できるスキルを身に着けた人材を育成している。 同様に演習に取り組む学生全体の進捗を把握することで、教育到達レベルと学習時間の過不足を判断し、カリキュラム構成時の学習時間の配分に適応している。	<b>4</b>
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	
各種コンテスト応募を通じて、納期の厳守と作品公開を目的としたデジタルコンテンツの開発フローを演習し、就職活動時にゲームデベロップメント企業に向けた作品応募ができる人材の育成を行っている。	<b>4</b>
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	
各種開発ツールのオペレーションを単独で学習するだけでなく、制作工程によって複数のツールを目的に応じて使い分ける演習を行うことで、複数のツールの関係性を理解し、用途に合わせた正しいツールの選択、使い分けができる人材を育成している。 カリキュラムの特徴として、在学中にC言語やC++、C#でゲーム開発できる人材、2Dや3Dゲームの開発ができる人材の育成に重きを置き教育している。その後、Unityや Unreal Engine といったゲームエンジンでの開発手法を身に付けさせる。	<b>4</b>

<p>・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</p>	
<p>一般社団法人コンピュータエンターテインメント協会 (CESA) に加盟し、東京ゲームショウスクールコーナーへのブース出展することにより、ゲーム関連企業との接触を図っている。また、教育課程編成委員のメンバーよりアドバイスを受け、カリキュラムの作成・見直しを行っている。</p>	<p><b>4</b></p>
<p>・ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携による実習等）が体系的に位置づけられているか</p>	
<p>ゲーム開発関連企業による就職セミナーや新潟市内のゲーム開発会社による授業を実施している。ゲーム関連企業は首都圏に集中しているため、新潟以外の企業開拓することと、次年度は双方向のライブ配信環境を利用するなど、遠方から企業が来校することなく職業教育を実施できる体制を整えたい。</p>	<p><b>3</b></p>
<p>・ 授業評価の実施・評価体制はあるか</p>	
<p>各学期末に授業アンケートを実施している。評価内容に目立った点があれば学科主任より聞き取り調査が行われ是正を即している。</p>	<p><b>4</b></p>
<p>・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか</p>	
<p>教育課程編成委員のメンバーや、ゲーム業界で働く卒業生を中心にアドバイスを受けている。特に卒業生からは、開発業務を行う上で履修内容がどのように活かされているが、在学期間中に学んでおきたかった技術を聞き取り学生指導に反映している。また、東京ゲームショウ(ビジネス・デイ)出展の際、接触企業と出展学生作品を題材に作品評価と指導内容のアドバイスをもらっている。</p>	<p><b>4</b></p>
<p>・ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか</p>	
<p>評価や認定の基本は全学科で共通となっている。単位認定基準は明確だが、作品の品質に対する評価は、演習レポートを加味したうえで、制作時間および作業量など業務として取り組んだ際の総合的な評価を行う。</p>	<p><b>4</b></p>

<p>・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</p>	
<p>検定取得時期に過去問題を元にした検定対策授業を行っている。コンテスト参加について、企画立案から制作スケジュール管理および技術指導、プレゼンテーション資料作成指導などのサポートを行っている。</p>	4
<p>・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</p>	
<p>ゲーム開発に用いる技術の進歩やニーズが変化する中で、業界研究や技術研究を行い、学生一人ひとりと向き合うことで毎年卒業生をゲーム業界へ輩出している。業務との兼ね合いで研究時間が思うように取れない時期もあるため、一年を通して安定した研究時間が確保できるように進めたい。</p>	4
<p>・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか</p>	
<p>ゲーム開発経験者は根本的に数が少なく、兼務であっても確保が難しい現状にある。現時点では新潟市内のゲーム開発企業より非常勤講師として授業を行ってもらっているが、Skypeや未来のビデオ(旧 Ustream)などライブ配信技術を利用することで、首都圏など遠方から来校することなく授業を実施できる体制を前年度に続き整えたい。</p>	3
<p>・関連分野における先端的な知識・技能等を修得する為の研修や教員の指導力育成など資質向上の為の取組が行われているか</p>	
<p>毎年、ゲーム開発者向けカンファレンス(技術交流会)「CEDEC」へ参加するなど、先端的な知識を習得しているが、技能関係は外部研修の機会が少なく、各自の研鑽が中心となっている。学生に提示する演習課題を教員が連携して作成することで、各種開発ツールの活用方法やプログラム開発環境の整備を行い、実践的な指導内容の策定を行っている。</p>	4
<p>・職員の能力開発の為の研修等が行われているか</p>	
<p>学科専任の研究職員は配置されていないが、教員がオープンキャンパス開催やイベント運営時に、参加者を対象としたデジタルコンテンツの作成・運用を行うことで、各種メディアの利用やデジタル機器の活用を検討する機会を設けている。学校として外部での研修に参加、業務知識修得のため研修に参加している。</p>	4

## (4) 学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1		
	工学	情報	ゲーム
・就職率の向上が図られているか	4	4	3
・資格取得率の向上が図られているか	3	4	4
・退学率の低減が図られているか	4	3	3
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	4
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	4

## ①課題

[情報工学科]

- ・時代の変化に対応した学生とのコミュニケーションや学習指導の実施、及び人間力育成のための指導内容に注力することが必要である。

[高度情報システム／情報システム科]

- ・卒業生の職務先での成果について把握が不十分であった。

[ゲーム開発専門／技術科]

- ・コンテンツへの興味をゲーム産業への就労意識に変化させることができなかった。

## ②今後の改善方策

[情報工学科]

- ・モチベーションの維持・向上に役立つよう、学生に応じた対応を心がける。

[高度情報システム／情報システム科]

[ゲーム開発専門／技術科]

- ・消費者から生産者としての意識を変化させるため、ゲーム企業の具体的な業務内容を紹介し、自身のキャリアデザインとして認識させる指導を行う。

## ③特記事項

・

## 平成27年度 自己点検・自己評価

学 科 情報工学科 [帝京大学併修]

## (4) 学修成果

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

<b>評価指標</b>	
・就職率の向上が図られているか	
学生数が少ないこともあり学生個々に対応できている。次年度就職年次の学生に対しては、早めにフォローすることで、次年度前期中の全員内定を目指す。	<b>4</b>
・資格取得率の向上が図られているか	
カリキュラムとして段階的な取得を目指す体系づくりはされているが、時期によっては国家資格よりも学士単位の取得を優先せざるを得ない時期がある。その状況でも、ヒューマンスキルの向上により自発的に、能動的に計画立てて学習できる学生が増えており、資格取得率は以前よりも向上しているといえる。引き続き指導を続ける。	<b>3</b>
・退学率の低減が図られているか	
ドロップアウトが発生しないように、ガイダンスを通じて学生の把握と指導を行っている。担任だけでなく学科・学校として共通理解をして、学生を注視することで退学への歯止めとしている。「なぜ情報工学科を選んだのか」「就職後の企業でどのように認められたいのか」というように入学当初で将来についての意識を再認識し、今自分が行っているのは何のためなのかを自覚してもらうよう指導している。	<b>4</b>
・卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか	
<p>在校生の活躍の状況については学校ホームページや同窓会会報、校舎外壁での掲示等を通じ対外発信している。卒業生の近況発信については企業の許可が必要な場合が多く、情報公開できない部分もある。</p> <p>他学科と比較すると卒業生とのネットワークは密とは言えないが、近年は就職後何カ月か経たのちに、学校を訪ねてくれる卒業生が出てきている。このような動きを活かし、OB講演会や就業先の会社説明会等を通じて交流機会を増やしたい。また、SNS等による情報収集や就職担当による企業からの聞きだしなどで卒業生の近況を把握して、情報共有する必要がある。</p>	<b>4</b>

・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	
当学科の目的の一つでもあるヒューマンスキル(自律性、主体性、創造性、改善力、コミュニケーション力)の向上は、着実に学生の力になっている。今後は卒業生が勤務した企業との連携を強化し、優れた教育活動となるよう情報収集を続けカリキュラムに反映する。	<b>4</b>

## 平成27年度 自己点検・自己評価 学 科 高度情報システム/情報システム科

## (4) 学習成果

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
・就職率の向上が図られているか	
現状、担任および就職担当の2名体制で学生個々に対応できている。内定時期が遅い学生がいるため、早期の全員内定を目指す。2年生課程では、入学から就職活動までの期間が短いため、意識付けや本人の就職活動準備と履修内容の理解が足りない学生が出ることもあり、担任・学科教員・就職担当と連携して指導を行っている。	<b>4</b>
・資格取得率の向上が図られているか	
主要検定受験前には対策授業を実施することで、取得率の向上を図っている。1年生からの目標検定や受験時期の変更に合わせ対策を検討・実施した結果、今年度は高度情報処理試験を受験する学生を増やすことができた。今後も継続して結果に繋げていきたい。	<b>4</b>
・退学率の低減が図られているか	
ドロップアウトが発生ないように適宜ガイダンスを通じて、個々の学生の状況把握と指導を行っている。保護者との連絡を密接にとり、学生状況を伝えて、家庭でのサポートを依頼することで、学校と家庭の両面から学生をサポートしていく。経済的また疾病等の理由で、学習が継続できない学生が増えてきている。	<b>3</b>
・卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか	
在校生の活躍の状況については学校ホームページや同窓会会報、校舎外壁での掲示等を通じて対外的に発信している。卒業生とのネットワークが密でないため、OB講演会や就業先の会社説明会等を通じて交流機会を増やしたい。また、Facebook等による情報収集や就職担当による企業からの聞きだしなどで卒業生の近況を把握して、情報共有する必要がある。	<b>3</b>
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	
職業実践専門課程を機に卒業生を含む企業との連携を強化して情報収集を行い、それらをフィードバックしてカリキュラムの改善・反映することで、優れた教育活動を行いたい。	<b>3</b>

## 平成27年度 自己点検・自己評価

学 科 ゲーム開発専門/技術科

## (4) 学修成果

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
・ 就職率の向上が図られているか	
作品制作を含めたゲーム業界への就職活動の指導を、個人レベルで行っている。 首都圏で開催されるクリエイター向け就職セミナーへの参加を、クリエイター向け就職活動として検討したい。ゲームでの就職をあきらめる学生もいるが、それぞれ就職先について、方向性や職集等を指導し、希望する就職先を見つけ就職させている。	<b>3</b>
・ 資格取得率の向上が図られているか	
基礎の確認レベルの検定を目標としているため、取得率は高めの傾向がみられる。 カリキュラムに則した学習をつづけ制作演習など一区切りしたら学生それぞれが自身を高めるため、資格取得に取り組んでいる。	<b>4</b>
・ 退学率の低減が図られているか	
退学を希望する学生には担任が個人ガイダンスを実施し、専門学校入学経緯の振り返りから原因を明確にし、在学期間の個人に見合った新たな目標を提示することで、学習の意欲を継続させる指導を行っている。	<b>3</b>
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか	
在学中から学生と教員のコミュニケーションが図られており、卒業してからもSNS等を通じて情報交換が行われている。在校生についてはコンテストへの応募に伴う受賞結果が主な活躍の場となる。	<b>4</b>
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	
在学中から学生と教員のコミュニケーションが図られており、卒業してからもSNS等を通じて情報交換が行われている。学習内容が現場でどのように活かされているか、現場を経験して在学期間中に学んでおきたかった事などを聞き取り、シラバス等に反映している。	<b>4</b>

## (5) 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	④ 3 2 1
・学生相談に関する体制は整備されているか。	④ 3 2 1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	④ 3 2 1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	④ 3 2 1
・学外活動に対する支援体制は整備されているか。	④ 3 2 1
・学生の生活環境への支援は行われているか。	④ 3 2 1
・保護者と適切に連携しているか。	④ 3 2 1
・卒業生への支援体制はあるか。	④ 3 2 1
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。	④ 3 2 1

## ① 課題

- ・学外活動の幅が広がってきており、学生の興味のあることや活動しやすい環境を用意するなどに対応する必要がある。
- ・卒業生の情報収集・情報提供が十分といえない。
- ・担任制度によるクラス・学科運営を行っている。専門学校としては技術指導が中心となるはずであるが、学校生活における指導が必要な学生もおり、指導のバランスが難しい。

## ② 今後の改善方策

- ・課外活動において教育に係る活動への支援体制、活動へ参加する学生への指導教育の検討。
- ・卒業生への情報収集・提供の強化を検討。
- ・学生支援専任など、担任制や指導教員制などを導入する。

## ③ 特記事項

## (5) 学生支援

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	
<p>クラス担任、就職担当、学生の3者で連携を取り、活動内容を改善しながら学生への指導を行い、早期内定に結びつけている。学習内容どおりの専門職に就く学生、方向転換する学生もいるが、本人が希望する就職先に勤務することが重要であり、担任および就職担当の指導により、内定している。</p> <p>28年度 情報工学科および情報学科の就職状況</p> <p style="text-align: center;">就職 100 %      業界就職 96 %</p> <p>ゲーム学科就職状況</p> <p style="text-align: center;">就職 70 %      業界就職 60 %</p>	<b>4</b>
・学生相談に関する体制は整備されているか	
<p>担任制で学生とのコミュニケーションを図り指導する体制を重要としている。ただし、学生の抱える問題についてうまく対応が取れずドロップアウトにつながるケースもあり、担当教員や教務として、継続した改善を検討する。精神的な問題を有する学生への対応は、姉妹校に数名いるカウンセラー(臨床心理士)の協力を得ている。また、担任によってはSNSも利用し気軽に相談できる体制もある。</p>	<b>4</b>
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	
<p>入学時の学費免除制度や在校生向けの優待生制度、授業料の延納・分納対応など学費の軽減や支払いの負担軽減を行っている。年間の諸経費についても可能な限り削減している。最近では多額・長期間の学費滞納や奨学金を借り入れても学費に充当できないケースも増えている。国による経済的支援にあわせ、法人でも経済的に就学困難な学生に対する授業料減免制度を設置した。</p>	<b>4</b>
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	
<p>年1回の健康診断を実施。就職活動迄に仕事に支障がないよう健康状態を把握する。精神面を除き現時点では専門医を置く必要はないが必要に応じて姉妹校の教員に依頼することも可能。また、外部に学校担当医を依頼している。</p>	<b>4</b>

<p>・学外活動に対する支援体制は整備されているか</p>	
<p>CANIプロジェクトやエール活動、日本ゲーム大賞アマチュア部門に向けてのゲーム開発を基軸に、東京ゲームショウへの出展および運営を学生等が中心に実施できる様に各学科が取り組んでいる。最新技術習得のため機材等の充実を図ることや、新たな学生作品の展示・発表機会を増やすなど必要に応じて支援している。ゲーム制作に取り組む学生は、首都圏で開催されるクリエイター向け合同企業ガイダンスや、学生向けイベントへの参加を促し、関東圏を視野に入れた活動に個人で取り組めるきっかけづくりを行っている。</p> <p>学外活動の幅が広がってきているので、学生等のかかわり方や支援についてサポートの検討のため状況把握をすすめる。</p>	4
<p>・学生の生活環境への支援は行われているか</p>	
<p>遠隔地出身者の為の民間宿泊施設を借り受け、姉妹校ともに学生寮として提供している。また、一般の自動販売機以外に、お湯・冷水の自由利用、ワンコインで購入できる無人購買を提供することで、学生のちょっとした食欲と興味と道徳心・自立心・責任感も感じ取れるよう環境整備を行っている。リラクゼーションのための環境も提供している。</p>	4
<p>・保護者と適切に連携しているか</p>	
<p>保護者による学生支援が学生の就職、学習に重要であるため、各期の成績表の配布や保護者面談会や新入生の保護者向けの電話連絡等を実施している。また、日常の欠席連絡や問題のありそうな学生保護者には連絡を取り密接に連携をしている。また、過去に問題を抱えている学生が、入学後再び同様なケースとなる事が多いので保護者との連絡が重要である。</p>	4
<p>・卒業生への支援体制はあるか</p>	
<p>同窓会の開催や就職情報の提供は行っている。必要があれば再就職のための情報を提供している。ほか、教務運営に無理がない形での支援を検討。卒業後の就職先企業での評価や実績等を調査し、卒業生等との連携・情報収集を検討する。</p>	4

・ 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	
<p>新潟市主催イベントにて、高校生や高校教諭と共同で、資料作成・プレゼンテーション等のイベント運営を行った。また、地域の小学校や公民館からの依頼によるコンピュータやロボットの実験教室等の取組みを継続して実施している</p> <p>高校からの依頼でゲームや情報処理分野の進路指導や就職指導や部活動の活動支援も始まり、競技会に向けたサポートも実施している。</p>	<b>4</b>

## (6) 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	④ 3 2 1
・校外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	4 ③ 2 1
・防災に対する体制は整備されているか。	④ 3 2 1

## ① 課題

- ・ハードウェアおよびソフトウェアを常に最新のものに更新することと、デジタルサービス・ゲームコンテンツを日常的に活用し、その知識・経験を業務・教育に活かすことを検討する。

## ② 今後の改善方策

- ・IT、SNSなど活用し、情報伝達・共有等の業務利用を検討する。

## ③ 特記事項

[

## (6) 教育環境

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	
<p>情報工学科・情報学科には最新ノートパソコン、ゲーム学科はゲーム開発のための高スペックパソコンをそれぞれ一人一台を貸与し学習・研究できる環境を用意。学生の研究・学習、興味・関心に合わせてVR機材等効果的な設備を用意し提供している。近年、学生向けに無償提供されるソフトウェアが多くなってきている。今後は学生が自主的に自由に研究できる環境を整えていきたい。</p>	<b>4</b>
・校外実習、インターンシップについて十分な教育体制を整備しているか	
<p>就業体験は有意義なので推進していきたい。事前・事後指導やインターンシップ期間で状況確認を行っている。今後、インターンシップ先の開拓が必要である。</p>	<b>3</b>
・防災に対する体制は整備されているか	
<p>施設・設備は耐震基準などに照らし合わせ工事を実施。昨年度の計画により災害時の飲料水の確保、キャンパス棟には発電機が設置された。災害に対し、学生ならびに教職員に啓蒙活動の機会を増やすことは効果的と考えている。</p>	<b>4</b>

## (7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
・学生募集活動は、適正に行われているか。	4 3 2 1
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	4 3 2 1
・学納金は妥当なものとなっているか。	4 3 2 1

## ① 課題

- ・学生募集活動は適切に行われているが、教育内容や募集方法の見直しなどにより定員を満たす努力は今後も必要と思われる。また、女子の入学率が資料請求者割合に対し少ないので、増やしていきたい。

## ② 今後の改善方策

- ・学校案内やホームページなど、高校生が学校研究で目にするものは、必要な情報が正しく・わかりやすく記載されているように配慮する。
- ・学校の教育成果等を広く伝えるため、資格取得や内定などの情報を出身高校に提供する。
- ・進学業者が開催する会場・校内ガイダンスにも積極的に参加して、高校生に直接説明する機会を増やし、入学者数増かにつなげる。
- ・保護者向けの案内を作成し、専門学校進学について理解を深める機会を増やす。
- ・デザインやCGなど女性の活躍が目立つ分野をPRして、女子の入学者数増加を狙う。
- ・進路選びの早期化に伴い、1、2年次に対するPR活動を積極的に行う。
- ・SNSやWeb広告などWeb上での広報活動を積極的に行う。

## ③ 特記事項

- ・平成29年度よりデジタルデザイン科を新設

## (7) 学生の受入れ募集

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
<p>・ 学生募集活動は、適正に行われているか</p>	
<p>高校生が進路選択に必要な情報元となる学校案内やホームページなどについて、必要な情報を正しく記載し、正しい進路選択ができるように配慮している。</p> <p>また、毎月数回のオープンキャンパスを開催して、各分野の担当教員より入学希望者や保護者に対して授業内容や資格取得、就職指導など、自分に合った進路選択ができるように具体的な情報提供を行っている。</p> <p>しかし、現状としては定員に達していないため、教務と連携を図り長期的な募集計画を随時見直しながら、定員充足に向けた募集活動を行いたい。</p>	2
<p>・ 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか</p>	
<p>資格取得や就職実績、各種コンテスト入賞等の教育成果があった際は、その都度ホームページで情報を開示している。資料請求者には上記のことを記載したリーフレット等を適時送付して伝えている。</p>	4
<p>・ 学納金は妥当なものとなっているか</p>	
<p>他校の学費や学資金情報を勘案し、妥当な金額を決定している。学費免除制度による減額がやや多いため、次年度は見直しが必要。諸経費については無駄な教材等を排除し、経済負担の軽減を図っている。</p> <p>なお、入学辞退者や退学者、および学費未納者については、規則に従い返還や徴収を行っている。</p>	4

## (8) 財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	4 3 2 1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	4 3 2 1
・財務について会計監査が適正におこなわれているか。	4 3 2 1
・財務情報公開の体制整備はできているか。	4 3 2 1

## ① 課題

特になし

## ② 今後の改善方策

## ③ 特記事項

## (8) 財務

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
・ 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	
校地校舎の購入のための長期借入れも計画どおり返済されており順調に自己資金構成比率が高くなっており今後も順調に推移するものと考えられる。	4
・ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	
予算は各部局が年度前に申請し総務経理部が妥当性をチェックし執行しており予算が適正に使われ教育研究活動が行われている。	4
・ 財務について会計監査が適正におこなわれているか	
27年度より公認会計士・監査法人に監査を依頼し、外部監査を行っている。常時、学校法人会計として税理士指導のもと会計をしている。また、複数の職員配置による牽制がたもたれている。年度末より2か月以内に決算処理を行い理事会までに監査する。	4
・ 財務情報公開の体制整備はできているか	
法第47条の規定による閲覧対象者は、「当該学校法人の設置する私立学校に在学する者 その他の利害関係人」に対し、求めに応じて公開する。当校の理事会に提出とれるものと同様の形式を公開している。ホームページ上においても公開する。	4

## (9) 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	4 3 2 1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	4 3 2 1
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。	4 3 2 1
・自己評価結果を公開しているか。	4 3 2 1

## ① 課題

特になし

## ② 今後の改善方策

## ③ 特記事項

## (9) 法令等の遵守

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

<b>評価指標</b>	
<b>・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</b>	
適正に管理している。学則変更などの機会に合わせて基準の確認を行っている。総務において管理し、重点的に理解することが重要と考える。	<b>4</b>
<b>・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</b>	
個人情報を正しく管理するために個人情報管理規程を作成。個人情報保護を守りつつ、教育成果の広報活動を行なうため、マニュアルや研修による職員の教育が必要と考える。	<b>3</b>
<b>・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか</b>	
年に1度実施して点検評価している。文部科学省生涯政策局の専門学校における学校評価ガイドラインを基準に実施。部署毎に、問題点の把握・改善策の検証を実施する。役職者を中心に改善の優先度に応じ、学校全体での改善を進めている。FD(ファカルティ・デベロップメント)の一環として全職員は意識し対応する。	<b>4</b>
<b>・自己評価結果を公開しているか</b>	
ホームページ上で評価結果を広く公開している。これは、職業実践専門課程運営上の規則でもある。また、事務部門に対しても評価制度を拡大し実施することを検討している。	<b>4</b>

## (10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	④ 3 2 1
・学生ボランティア活動を奨励、支援しているか。	④ 3 2 1
・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を、積極的に実施しているか。	④ 3 2 1

## ①課題

特になし

## ②今後の改善方策

## ③ 特記事項

## (10) 社会貢献・地域貢献

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価指標	
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	
<p>情報技術の進歩に沿った教育が不可欠であることから、業界との連携、地域との交流は重要。研究設備を用意し関連企業と連携を進めている。施設・資金・マンパワーを確保し無理のない形で、学生等の研究と合わせ地域貢献できる仕組みを計画している。他、校舎をベンダー試験の試験会場として開放している。</p>	<b>4</b>
・学生ボランティア活動を支援しているか	
<p>社会を広く知ることは重要で、様々な経験ができるよう支援する。CANIプロジェクトが中心となるが、担当教員にて支援する体制づくりを進めている。他、新潟市のパソコン支援を中央公民館で実施している。</p>	<b>4</b>
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	
<p>新潟市生涯学習センターや地域の小・中学校からの依頼により、ボランティア講座の開設や理科の特別授業や高校での就職指導講座という形で実施している。学生主体の地域向けの学習講座や当校の教員が説明担当で学生がサポートとして実施する講座など種々実施している。学生全員が実施するものではないが、参加学生にとっては代えがたい機会となっている。</p>	<b>4</b>

## 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・職業実践教育、産学連携、地域連携の強化により新潟高度のカリキュラムの充実を図る

企業協力における実務演習（企業インターンシップ）を行う科目を継続して実施。協力企業先で、より実践的な職業教育を行えている。学生は学習と職業との違い、観点、意識の違いを吸収し、良い形で就業意識の変化につながっている。アクティブラーニングでの学年をまたいだ合同で授業も、教育連携企業中心に複数社の協力のもと実施することができた。学生の主観と団体・企業やビジネスを意識させた考え方のギャップやそれを踏まえた授業展開など内容を都度検討しながら実施ではあるが、新潟県の補助金助成事業として実施できたことは、良い学習成果となった。継続して新潟市南商工振興会との協働による鳥屋野潟を中心とした町おこしイベントに関わるプロジェクトや、新潟市とも、潟開発研究所の新潟市学術研究として鳥屋野潟の調査に協力している。また、ゲーム開発会社の協力を得て、ゲーム制作に関わる授業や作品評価も継続して実施。現場、商品としての目線で講義や評価を行ってもらうことで、学生の技術向上はもとより制作・就業意識向上にもつながっている。今年度も、新潟市生涯学習センターとの協働で市民を対象とした各種パソコン教室を実施できた。インターネット入門や年賀状作成など実用的な内容で講座を行え、毎回定員を上回る応募がある。今年度は、活動報告として新潟市社会教育委員会等の前に学生が活動報告する機会もでき、大変よい経験につながっている。

- ・新しい高等教育機関への移行計画と職業実践専門課程の充実を図る。

実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の制度化についてこれまで中教審で審議し、論点も整理され、今年にも文部科学大臣に答申する流れとなってきた。新たな高等教育機関の新設に向け、当校としても内容の確認と対応について検討する。

職業実践専門課程が設置・正しく運営され、優秀な人材を社会に輩出し続けていくうえで、現状の仕組みのまま陳腐化するのではなく、より専門学校教育を充実させるうえで、文部科学省でも、新たな高等教育機関についての議論の他、既存の専門学校教育の振興のあり方の検討がおこなわれている。新たな高等教育機関と同様、地方・団体・企業との教育連携による教育にかかわる質の保証として、日本の雇用環境、学習環境、グローバル化などに対応できる人材の育成が求められている。「教育」重視・教員中心から、「学習」あるいは「学修」重視・学生中心へと移行し、「アウトカム(成果)」中心の質保証へと学校の取り組みをシフトしていくかが、28年度から29年度における重要な取組みとなる。

これまでの活動を広げ、優れた学生の輩出をするため、29年度は新潟高度情報専門学校の新たな「アウトカム(成果)」の構築・実績づくりが教職員の目的である。